



主の公現 (マタイ 2:1-12)

彼らはひれ伏して幼子を拝み、贈り物を献げた

記事を紹介します。時事通信の記事によると、新約聖書に記された「ベツレヘムの星」は彗星（すいせい）による実在の天体現象だった可能性があると、米航空宇宙局（NASA）の惑星科学者マーク・マトニー氏が発表しました。彗星の動きを分析した論文が昨年 12 月 3 日付の科学誌「英国天文学会誌」に掲載されたということです。

ベツレヘムの星は本日の朗読箇所「マタイによる福音書」に登場します。星がその動きで東方の三博士を幼子イエス・キリストの元に導き、ベツレヘム上空で静止したと伝えられています。朗読の通りです。

マトニー氏は古代中国の史書「漢書」に記録された、紀元前 5 年に観測された彗星に着目しました。軌道モデルを解析した結果、地上の一部からは星が動いた後で一時的に静止したように見えた可能性があると指摘したそうです。

私はこの記事を見て、聖書の出来事を科学的に説明するには、2 千年以上かかるんだなあと考えました。ですから、私たちが福音書の出来事を驚いたり怪しんだりする必要はありません。何千年もすれば科学者が説明してくれます。これからは、「2 千年も経てば、科学者が証明してくれる出来事を私たちは知っている」と考えると良いでしょう。

その、占星術の学者たちは、こう言っています。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」（2・2）しかしなぜ、星占いで、ユダヤの国に「ユダヤ人の王としてお生まれになった方」が現れたと知ったとしても、拝みに行く必要を感じたのでしょうか。

占星術の学者と言っても、占星術を学べば誰でも学者になれるわけではないでしょう。その国を代表する占星術の学者になれたこと。それは、本人の能力のほかに、「自分の今があるのは誰かが私を守ってくれたから、導いてくれたからだ」と考えるのではないのでしょうか。ですから、「東方でその星を見た」その時に、「この星の下に生まれた方が、今の私たちにしてくれたのではないだろうか」と考えた。だから、拝みにきたのではないのでしょうか。

拝みに来た理由がはっきりしました。占星術の学者として当代随一の名声を得るまでになった。自分が今あるのは、きっと誰かのおかげだ。その人を確かめたい。そうやってユダヤの国まで旅をしてきて、ヘロデに「わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」とつげました。

この出来事には、もう一つの効果があると思います。ヘロデと、エルサレムの人々に、自分が今あるのはだれのおかげであるかを考えさせるきっかけになった、ということです。

ヘロデは、自分が今あるのは自分でのし上がったのだと思い込んでいます。エルサレムにいる人々は、不承不承ではあっても、ヘロデ王の

おかげで今があると思っています。祭司長、律法学者たちすら、本当はベツレヘムで生まれた子が自分たちの救い主であることを知っていながら、拝みに行きませんでした。メシアを一番よく知ったつもりの人がメシアから最も遠い人だったというのはなんとも皮肉なことです。

中田神父は、今年幼子イエスを拝む気持ちは、例年以上に真剣です。昨年が母親の悪性リンパ腫との苦しい闘いの一年で、心の底では今年を迎えられないかもしれないと思っていました。それが、今年も無事に過ごせている。今があるのは、医療従事者の手厚い看護もあります。命をその手に握っている神様の奇跡だと思っています。ですから、今があるのはあなたのおかげですと、素直に礼拝出来ています。皆さんは、どのような思いで、幼子に礼拝をささげているのでしょうか。

東方から来た占星術の学者たちは、新しく加わった礼拝者です。たくさんではありませんが、本来イエス・キリストを礼拝すべき人々に加えて、新しく礼拝者が加わる可能性はいつも開かれています。私たちは「中の人」ですが、何とかして、新しい礼拝者を加えていく努力が必要です。「私が今あるのはこの方のおかげです。」

皆さんは今日、理解したと思います。その答えに素直に自分を合わせて一年を過ごしていきましょう。「私が今あるのはイエス・キリストのおかげです。」これ以外の道を通して人生を生きる人は、一つの奇跡も体験せずに人生を終わる人なのだと思います。

主の洗礼(マタイ 3:13-17)